宇土市地域学校協働活動便り

# 「結（ゆい）」

No.4

R7.7.10
発行

宇土市教育委員会
生涯活動推進課
生涯学習係
文責:中村敬人
TEL0964-22-6510

先月末の梅雨明けと同時に連日茹だるような猛暑日が続き、若干、夏バテ気味になっています。皆様方も熱中症にはくれぐれもご留意ください。

## 子供たちの居場所づくりや学びを支える活動の充実

今回は、６月に参加しました研修会での学びについて、その内容をご紹介します。

◆「子供たちの居場所とは？」（こども・若者の居場所に関する理念や視点、求められる要素）

①安心して休息できること、安らげること　②ありのままの自分でいられること、受容されること　③自分の気持ちや意見を表現できること　④自己肯定感を抱けること　⑤自分の役割を感じられること、自己有用感を抱けること　⑥自分の存在を認識できる、生きているという感覚を抱けること　⑦人と人との関係性が開かれていくこと　⑧自分探しの学びが生まれること　⑨いつでもある、戻れる場所であること　⑩こども・若者が主体であること　⑪いつでも自由に1人で行けること　⑫過ごし方を選べること　⑬味方である大人がいること

※こどもの居場所に関する調査研究報告書（R5）

上記の 理念や視点、求められる要素に照らし合わせて本市の地域学校協働活動（取り分け、子供たちへの社会貢献活動の場の提供の視点から）ではどのような居場所を提供しているのか、振り返ってみたいと思います。

令和５年度から本市の活動も子供たちに地域の活動に参加・参画する場の提供を進めてきました。

具体的にその幾つかを紹介します。１つ目に、敬老の日に小学校の特別支援学級の子供たちがメッセージを添えた団扇を贈る取組があります。子供たちのメッセージが書かれた団扇を手にしたお年寄りから喜びのメッセージと写真が子供たちに届きます。それを目にした子供たちは自分たちが届けた団扇を喜んでもらったことと共に自己有用感が育まれます。

２つ目に、鶴城中学校音楽部の生徒がお隣の老人福祉センター利用者へ歌声を届ける活動を年に２回実施しています。３０分程度のコンサートですが、生徒たちは利用者が口ずさめるような曲を選曲して披露します。そこに、相手を思いやる心があるように思います。視聴者は彼女たちの透き通った歌声に耳を傾け、涙される方もおられます。また、生徒たちは他者に感動を与える機会をもらえたことに感謝し、披露する側、聞く側の互いにウィンウィンの関係が成立しているように思います。

３つ目に、網田中学校生徒のみかんアイス作りがあります。地域の特産であるみかん栽培で廃棄されるみかんを商品にできないかと考え、そこからみかんアイスが商品として開発されます。そこには地域起こしの視点があり郷土愛を育む活動となっています。

４つ目に、地蔵まつりの造り物制作への小学生の参画があります。地蔵まつりは本市の一大イベントです。ただ、最近では造り物の担い手の高齢化に伴いその数が減少傾向にありました。そこに小学生が手を挙げたのです。しかも、昨年の２校から今年は４校へ参加校が増えたのです。将来の地域の担い手としての自覚の芽生えを予感させる取組みとなっています。

改めて、本市でも子供の居場所づくりに貢献する場の提供の存在を再認識することができました。

今後も子供たちの居場所となる社会貢献活動の場の提供の確保と拡大に努めたいと思います。

**地域学校協働活動は、学校と地域が連携・協働して双方向で取り組む活動です。**